

## 教育交流部門報告

国際教育交流センター教育交流部門

渡 部 留 美・城 所 佑 委

### はじめに

平成25年10月の国際教育交流本部国際教育交流センター（以下、センター）の設置に伴い教育交流部門が発足し、平成26年度は初めて年間を通して活動を行った。教育交流部門は、センター専任が2名、センター所属であるが部局の留学生担当をしている者が4名（教育発達科学研究科、情報文化学部／情報科学研究科、国際言語文化研究科、環境学研究科）、それ以外の8部局の留学生相談室等に所属する14名の国際化推進教員、26年9月から加わった事務補佐員の城所（週15時間勤務）から成る大所帯である。しかし、専任以外の者は各部局の国際教育交流業務を行うことが主たる業務のため（本部に関する業務エフォートは一割となっている）、センターでの活動は他部門に比べて見えない部分が多いかもしれない。以下、センターに特化した活動のみをピックアップし報告を行う。

### I. 教育交流部門の活動

#### 1. ワーキンググループによる活動（野水、渡部は全てのWGに参加）

##### 修学に関する困難を抱える留学生への対応WG

本WGは25年度に引き続き、西山、浅川、曾、中島がメンバーとなり、問題の抽出、他大学への聞き取り、本学への制度改善などの検討を進めた。修学困難な学生の背景、要因は多岐に渡るため、今後は、他部門と連携するなどし、課題となっている点についての解決に向けて継続していくこととなった。

##### 留学生のアルバイト就労時における身元保証問題WG

本WGは伊東、浅川、西山、山口がメンバーとなり、各関係機関、関係者への聞き取り、調査を進めた。本WGの成果は、伊東、浅川、西山が「留学生のアルバイト就労時における身元保証問題」と題した実践報告

を執筆し、留学生教育学会に投稿、査読を経て、『留学生教育学』第19号に掲載された。また、結論の一つとして、「大学生協学生賠償責任保険」への加入を強く推進することが提言され、留学生教育交流実施委員会に議題として提出、結果的に各部局への当該保険への加入推進の依頼、各オリエンテーションでの加入案内、手続きなどに発展した。

##### 秋学期留学生宿舎入居時期の検討WG

本WGは奥田、安井、国際学生交流課課員がメンバーとなり、検討を進めた。従来大学の宿舎への入居は、10月1日以降となっていたが、10月1日から授業が開始されるため、9月中の入居の可能性について検討を行った。結果として、退去時期を早めることにより、9月中の入居が可能となることが明らかとなり、26年度10月入居者から退去時期は8月末と定めることで27年度から9月入居が実現した。また、9月末に全学オリエンテーションを実施することも可能となった。宿舎費の支払いについては、現在半月ごととなっているため、留学生が損を被る可能性もあり、研究員への対応同様、日割り計算ができるよう、今後も検討が必要である。

##### 2. 部門会議の開催

本部門では基本的に毎月部門会議を開催している（8月や特に議題のない月は不開催）。会議には、部門員の他、国際学生交流課課員にも出席いただいている。26年度は10回開催した。2回に1回は、月報の提出をお願いしている。会議の内容は、月報に基づいた各部門員からの報告、WGからの報告、大学視察出張報告、オリエンテーション、リクルーティング活動など、そのときによって異なる。全員がなるべく参加できるように、毎回日程を調整している。国際教育交流センターには20数名収容できる部屋がないため、毎回部門員に各部局の会議室の予約をお願いしている。

### 3. ワンストップサービスデスク

「ワンストップサービスデスク（以下、ワンストップ）」は、平成25年12月から開始した。ワンストップとは、部門員（国際化推進教員）が交代でデスクに座り、全学の留学生の質問・相談に日本語および英語で対応するというシステムである。ワンストップの設置場所として、国際学生交流課内（GSID 棟）と国際教育交流センター（国際棟）の2カ所で開始したが、国際学生交流課のほうは利用率が低く、26年7月から国際棟1カ所にすることとした。

医学系研究科を除く15名の部門員が週に1回、2時間担当することとし、1日3人体制とした。時間は、10:30～12:30、12:00～14:00、14:00～16:00を基本とし、学生の来室が見込める昼休みは30分間シフト時間を重ね、2人体制とした。デスクには、机、椅子、パソコン、プリンター、スキャナー、電話のほか、各部門員に学部・研究科が発行している冊子（学部案内、入試募集要項、プログラム）を提出いただき、相談の



写真：ワンストップサービスデスクの様子

際の参考資料とした。その他、学内地図、留学生向けアパートの案内なども取り寄せ、設置した。

始まって間もなく、アルバイトをするために保証人が必要だが、どうすればよいか、という相談が持ち込まれた。この件について、部門会議にて協議したところ、部門員によって対応が異なることが明らかとなった。アルバイトの保証人については、大手コンビニ、量販店等で導入が進んでおり、今後留学生が増加するなかで、何かしらの対策を立てておく必要があるという意見が出た。結果として部門内でワーキンググループの立ち上げに繋がり、留学生教育交流実施委員会での審議を経て、国際交流委員会に議題として提案するなど、現場の声を問題解決に結びつけることができた。

平成25年12月から平成27年3月までの項目別相談件数は表1のとおりである。項目では「案内/取次」が最も多く、次いで「学術」、「進学」、「各種手続き」の順となった。また、留学生が多く来日する10月は他の月と比べて件数が一時的に増加するが、その翌月には再び件数は一桁程度に留まるという傾向にあった。具体的な相談内容は、建物の場所を尋ねる簡単な質問から、「夜眠れない」、「研究室でトラブルを抱えている」といった深刻な悩みまで多岐に及んでいる。また、相談先がわからない学生がワンストップに立ち寄り、部門員が一旦話を聞いた上で管轄部局に取り次ぐケースも多かった。留学生にとっては各部局の管轄範囲は複雑でわかりづらいため、どのような相談にも日・英で対応するワンストップが一定程度そうした問題を抱え

表1. ワンストップサービスデスク 項目別相談件数（平成25年12月－平成27年3月）

	進学	学術	生活	メンタル	履修	各種手続	アルバイト	宿舎	案内/取次	チューター	その他	計
2013.12	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
2014.1	1	0	0	0	0	3	0	1	4	0	0	9
2014.2	1	1	2	0	0	1	1	1	1	0	2	10
2014.3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
2014.4	1	0	0	0	2	0	0	1	3	1	0	8
2014.5	3	3	0	0	1	0	1	0	1	2	0	11
2014.6	1	2	0	1	0	1	0	0	3	0	0	8
2014.7	2	2	2	0	0	3	0	2	4	1	0	16
2014.8	0	2	0	0	0	3	1	0	0	0	0	6
2014.9	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
2014.10	0	6	3	1	2	1	1	1	7	0	4	26
2014.11	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	5
2014.12	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	5
2015.1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
2015.2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2015.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	13	23	7	2	5	12	5	8	30	4	10	119

る学生の受け皿に成り得たといえるであろう。

ワンストップは、平成27年3月上旬、国際教育交流センター内の一部オフィス移動の関係上、フォローが整わないことなどから発展的解消となった。オフィス移転の準備のため、実質ワンストップの運営は27年2月中旬で終了した。今後は、ワンストップで得られた知見をもとに、さらなる部門員間の情報共有および、部門内ワーキンググループ活動を継続することで、留学生の問題解決に部門としてより効果的に取り組んでいく必要があると考える。

#### 4. その他の活動

その他、他部門との連携により実施した活動について報告する。

#### 学部生向け入学ガイダンス

学部留学生向けオリエンテーションが平成27年3月26日に実施された。アドバイジング部門から適応や生活の話、教育交流部門からは歓迎の挨拶を行った。加えて、国際言語センター教員から日本語履修について、教養教育院からは教養教育科目の履修について説明が行われた。昨年度に引き続き、参加者が学部ごとに分かれ、先輩留学生やチューターから履修登録について教えてもらう時間を設けた。学部留学生は、4月に入ってから学部ごとに一般学生と共に履修手続きについて説明を受けるが、全てを把握することは容易でなく、履修漏れや間違った単位の取り方をしている留学生がこれまでにいた状況を受け、これらのトラブルを回避する目的で実施している。これは大変好評で、1時間近く履修や授業内容について説明を受けるなどしていたが、新入留学生にとっては、先輩とのネットワークを築くよい機会になったと考える。

#### 各オリエンテーション

全学オリエンテーションを、入学時期の4月と10月にアドバイジング部門、キャリア支援部門とともに行った。図書館の使い方、情報セキュリティ、日常生活などについて説明を行い、留学生相談体制、ワンストップサービス、各部門員の紹介を行った。同様に、G30オリエンテーション、NUPACEオリエンテーションにおいて、留学生相談体制、ワンストップサービス、各部門員の紹介を行った。

#### ハンドブック類の改訂

「名古屋大学チューターハンドブック」、「名古屋大学留学生ハンドブック」の改訂をアドバイジング部門、国際学生交流課と協働で行った。

#### 留学生リクルーティング活動

26年度は、インドネシアと中国で留学生のリクルーティング活動を行った。インドネシアは、12月8～12日にかけ伊東、レレイト、浅川、西山が、中国は、3月16～19日にかけ、曾、檜枝、浅川、伊東が参加した。内容としては、主に本学の協定校を訪問し、学生向け模擬講義(30分程度のレクチャー)、進学説明会、国際交流担当者との意見交換会を行った。両国とも大学から歓迎され、成功裡に終了した背景には、ただの学生リクルーティング活動とは異なり、「学术交流」目的であることを打ち出している点が挙げられる。

#### 他大学視察

本学の留学生に係る制度の改善について、主にWGなどで協議しているが、その際、他大学への聞き取りや現地視察を行うことで、グッドプラクティスを収集し、よりよい解決への提言に結びつけることができる。本部門の予算で実施したものとしては、神戸大学(7月29日)への日本語プログラム、地域ボランティア団体の活動視察、会津大学(27年2月19日)、立命館アジア太平洋大学(2月23日)、早稲田大学(2月25日)への修学困難な学生への対応についての聞き取り、長崎外国語大学(3月4日)へのアルバイト保証人についての聞き取りである。

#### 英語コースカタログ発行

留学生受入部門と連携し、本学で実施されている英語による授業をまとめたものを学部版と大学院版それぞれ発行した。国際企画課からそれぞれ部局の教務課に依頼をし、データを収集した。収集したデータの整理、英語のチェック、インデックスの抽出などを行い、冊子体として、前期に第一版、後期に第二版を発行した。ウェブ版として、名古屋大学オープンコースウェア(<http://ocw.nagoya-u.jp/nu/>)に掲載し、キーワード検索機能をつけるなど、利用しやすいようにした。

## II. 個人の活動（渡部）

### 1. 国際教育交流活動

25年度に引き続き、後期に開講されている全学教養科目「留学生と日本」の担当教員の一人として参加した。26年度に初めて、G30学生向け全学教養科目「切迫する自然災害に備える（Preparedness for Imminent Natural Disaster）」のコーディネーターを担当した（工学研究科国際交流室レイト・エマニュエル、災害対策室川端寛文と連携）。

第3回 MEIPLES（名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム）、第5回 IF@N（名古屋大学国際学生フォーラム：11月15日）のコーディネーション及び学生への教育、支援を行った。

6月5日に宿舎チューター向けのオリエンテーションをアドバイジング部門と共に実施した。

G30アドミッションオフィスの要請により、11月19～27日に中国におけるリクルーティング活動に参加した。北京、天津、上海、広州と中国全土を移動し、高校や大使館、領事館を訪問した。中国の有名大学の附属高校の国際コース、国際学校（10校程度）などにおける留学説明会、本学中国交流センターとの共催による留学説明会、大使館・領事館訪問によるG30の説明など、大変慌ただしいスケジュールではあったが、中国の海外留学志向や国際化の戦略について垣間見る機会となり、大変勉強になった。

9月末をもって、山口特任講師が転出することになり、後任着任までの2ヶ月間（10～11月）、情報文化学部・情報科学研究科の留学生担当を兼任した。報告者にとっては、初めて担当する部局であり、部局によって留学生の構成や制度、留学生担当の役割も若干異なっており、担当事務の方に指導をいただきながら業務遂行を行った。今回の経験により、他部局の事情を知るよい機会となった。

### 2. 研修・教育活動

NAFSA（Association of International Educators）の年次大会に5月25～31日、EAIE（European Association for International Education）の年次大会に9月15～21日、APAIE（Asia-Pacific Association for International Education）の年次大会に3月22～27日参加した。これらの大会への参加は、三重大学、愛知教育大学との三大学連携事業の一環で行われた。学内に広く公募し、国際教育交流活動に関心のある教職員が参加した。EAIEには、本学から6名（渡部は別経費で参加のため含まず）、三重大学から2名が参加し、APAIEには本学から5名、三重大学から1名の参加があった。

報告者が世話人となっている関係協職員・学生（学内外）を対象としたインフォーマルな会であるスタディーグループであるが、7月（客員教員による講演）と11月（海外研修報告会）の2回のみ開催となった。また、学内（3大学連携）の教職員向け研修を5回実施した（詳細は事業報告に明記）。

### おわりに

教育交流部門が発足して1年半が経過した。教育交流部門は、新しく設置された部門であるため、正式なオフィスがないままであったが、3月に工学部2号館に部屋をいただき、渡部と城所が引っ越しを行った。30平米の広さがあり、部門会議が開けるほどのスペースはないが、数名のミーティングが可能となった。ワンストップサービスデスクは終了したが、ワンストップや部門会議、種々のWGでの交流を契機として、部門員が顔を合わせる機会が増え、部門会議で発言しやすい雰囲気が生じ、WGや他のプログラム運営にも積極的にメンバーとして手を挙げてもらえやすくなった。それぞれの専門性や英知、経験が集約される本部門は、名古屋大学の国際化推進に大きな役割を果たしていると自負している。それぞれの部局や個人の業務に忙殺されながらも部門活動に協力いただいている部門員に敬意を表したい。